

釣船に 乗せて 鶴姫 送る 瀬戸  
頬は 微かに 桜エビ色

令和四年四月二十二日

大中臣正比呂



おおやまつみ

瀬戸内の大山祇神社 大宮司の娘、鶴姫は勇敢な悲恋の女性だが、  
駿河の姫を釣り上げてみると、恥ずかしげに頬は桜エビ色をしている。

一緒に瀬戸内まで行くようよ。海はつながっているのだから。